

スタッフ便り

スタッフ便りを書く順番が回ってきました。←二年前にスタッフ便りを書いたときの書き出しがこれでした。そのときの内容を復習がてら読むと、その日の出来事を（日記のように）記述するという、我ながら姑息な手法でスペースを埋めていたようです。ついでにその二年前の付近のカレンダーを振り返ってみると、隔週ぐらいで国内や国外に出張していたようです。今日時点からみて最後の出張は今年1月の高知でのシンポジウムでした。改めて、ここ最近の数か月の生活は、当時とは一変したなあと思わずにはいられません。広報誌 SENAC の今号の編集部会の会議も Google Meet によりオンラインによって行われました。考えてみると、対面での会議は2月以降一度も経験していないですね。個人的には会議に関しては、オンラインの方が便利で捗る気がします。各種 Web 会議アプリにも随分と慣れてきた気がします。この先、オンライン会議が主流になり続けるのでしょうか。ところで、今号の記事にありますように、大規模科学計算システムが更新されます。ちょうど今、センターの2号館で搬入作業等が行われています。今回もまたオチもなく近況を書くだけになってしまいました。(T.M)

4月1日付け着任後、新型コロナウイルス感染拡大防止への大学としての対応は、目まぐるしく変化し、あっという間に3ヶ月が経過している。本号が発行されている頃は、まだ本学がレベル1であることを心より祈っております。政府の緊急事態宣言解除後の経済活動は、それ以前より当たり前のように活発となり「ウィズコロナ」との付き合い方に苦慮している。私自身、建物の中に入った際には手指用アルコール消毒をまず探し、エレベーターには乗らず案内板を横目で見ながら階段を目指して目的の場所へ向かい、さっさと選んだあとはレジで当然のようにソーシャルディスタンスを保ちキャッシュレス決済となんと今時に順応しているではないか。

しかし、梅雨時の休日は兼業農家の宿命である田んぼ周辺の草刈りと畑の草取りで大量の汗を流したあと、毎週楽しみにしている「こんな所にポツンと一軒家」を今度は胃内アルコール消毒をしながら手づかみで漬物などつまみを頬張り、こんな生活もありかな？ 早く梅雨が明けないかな？ 早くスーパーコンピュータでワクチン開発できないかな？ 早く遠隔医療で血糖値と血圧下がらないかな？ などと妄想にふけている。(S.U)



開発中の青葉山キャンパス

SENAC 編集部会

滝沢寛之 水木敬明 後藤英昭 伊藤昭彦
早坂和勝 大泉健治 小野 敏 斉藤くみ子

令和2年7月発行
編集・発行 東北大学
サイバーサイエンスセンター
仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
郵便番号 980-8578
印刷 株式会社 東誠社